

導入

- 東日本大震災以降、「波」と聞くと大津波を連想し、恐怖や破壊のイメージを持つ人が多いのではないのでしょうか。
- しかし、イザヤ書における「波」は、神様の恵みを象徴し、私たちに愛、赦し、平安を与えてくれるものです。
- イザヤ書は、波のように厳しい裁きと赦しのメッセージが交互に語られ、一見矛盾しているように見えますが、神様の深い愛と憐れみを表しています。
- 神様は、私たちが罪深いことを知りながら、「恐れるな。大丈夫だよ。」と語りかけ、常に私たちを導いてくださいます。

文脈

- 前章の 43 章 25 節では、神様がイスラエルの罪を赦し、再び彼らを愛することを約束されました。
- しかし、43 章の終わりでは、イスラエルの罪の深さを改めて明らかにし、厳しい現実を突きつけています。

1. 創造主なる神様の呼びかけ

- 44 章 1 節では、イスラエルの厳しい状況を踏まえて「今、聞け」と呼びかけている。
- 神様とイスラエルの関係
 - 1 節:「主人としもべ」、「選びだした人と選ばれた人」。
 - 2 節: 神様はイスラエルの創造主であり、設計者である。
- 神様はイスラエルを誰よりもよく知っており、どのように助ければ良いかを一番よくわかっています。
- エシュルンとは「まっすぐな者」という意味、私たちが罪深くて、「まっすぐな者」にしてください。
- だから、私たちは神様を恐れなくて良いのです。

2. 神様の霊を注がれる

- 3-5 節で、神様はイスラエルに「潤いのない地に水を注ぎ、乾いたところに豊かな流れを注ぐ」と約束します。
- この約束は、聖霊様を与えてくださることを意味します。
- 聖霊様がしてくださること
 - 私たちに永遠のいのちを与え、祝福を与えてくださいます。
 - 私たちは生き生きとした人生を歩むことができます。
 - 私たちに「イエス様は主です」と告白させてくださいます。
- だから、もし霊的な渇きを覚えるのなら、神様が、聖霊様によって満たして下さり、生き生きとした神の民としてくださるよう祈り求めましょう。

3. 主以外に神はいない

- 6-8 節で、神様は自分だけが唯一の神であることを宣言します。
- 「初めであり、終わりである」の意味
 - 時間だけではなく論理的な意味での初めと終わりをご支配されていることをしめしています。
 - 神様は、私たちを創造し、この世界を造られた唯一の神様です。
 - 神様は、すべてを終わらせることもできる唯一の神様です。
 - 神様以外に、私たちのはじめと終わりを定めることができる神はいません。
- だから、神様は、正しく預言をし、その通りに歴史を動かすことができる唯一の神様です。

結論

- 神様は、私たちに「おののくな。恐れるな。」と語りかけ、私たちを証人として立ててくださいます。
- そして、神様は、私たちが罪深くても、恐れる必要はないと教えてください。
- 私たちは、生ける水である聖霊様を与えられることを信じ、神様に頼って、平安の中を歩いていきましょう。